

# 偏微分方程式 — 層の超局所台：微分加群への応用<sup>\*</sup>

柏原正樹

ピエール・シャピラ

1982 年 9 月 27 日 提出

## 概要

$C^1$  級多様体において、層の超局所台を、余接束内の包含的な錐的閉集合として導入し、その関手的な性質を調べる。その後、確定特異点を持つホロノミー加群から誘導される方程式系の特性多様体の増大度を導出する。

## 1 法錐

$M$  を  $C^1$  級多様体とし、 $T^*M$  をその余法束、 $\pi$  を  $T^*M$  から  $M$  への射影とする。 $\dot{T}^*M$  を  $T^*M$  における零切断  $T_M^*M$  の補集合とする。 $a$  を  $T^*M$  の<sup>たいせき</sup>対蹠写像 (application anti-podale) とし、 $S^a$  を  $T^*M$  の部分集合  $S$  の像とする。 $M$  の 2 つの集合  $S$  と  $Z$  に対し、点  $x \in M$  における  $Z$  に沿った  $S$  の法錐 (cône normal)  $C_x(S, Z)$  とは、接空間  $T_xM$  の閉錐で、局所座標系を用いて次のように定義されるものである。

$$\begin{cases} v \in C_x(S, Z) \Leftrightarrow S \times Z \times \mathbf{R}^+ \text{ 内の列 } (s_n, z_n, c_n)_n \text{ で} \\ s_n \xrightarrow{n} x, z_n \xrightarrow{n} x, c_n(x_n - z_n) \xrightarrow{n} v \text{ をみたすものが存在する。} \end{cases}$$

$C(S, Z) = \bigcup_x C_x(S, Z)$  とおく。 $Z$  が  $M$  の部分多様体のとき、 $C_x(S, Z)$  は  $T_xZ$  で安定であり、 $C_Z(S)$  で  $C(S, Z)$  の法束  $T_ZM$  での像を表す。 $M$  の閉部分集合  $S$  に対し、錐  $TM \setminus C(M \setminus S, S)$  を強い意味での法錐 (cône normal strict) といい  $N(S)$  とかく。また  $N(S) \cap T_xM$  の双対閉錐体を  $N_x^*S$  とかき、 $x$  における  $S$  の余法錐 (cône conrmal) という (cf.[4])。

## 2 超局所台

$D_+(M)$  ( $D_b(M)$ ) を  $M$  上の  $A$  加群の層の下に有界な (有界な) 複体のなす圏の導来圏とする。<sup>\*1</sup> ここで  $A$  は環である。

命題 1. —  $F^\bullet \in \text{Ob}(D_+(M))$  とし  $\xi$  を  $T^*M$  の点とする。次の条件は同値である。

---

<sup>\*</sup> M. Kashiwara, P. Schapira, *Micro-support des faisceaux: application aux modules différentiels*, C. R. Acad. Sc. Paris, 295 (8 novembre 1982) の和訳 (2023/10/28). (2024 年 8 月 9 日更新)

<sup>\*1</sup> [訳注]  $D_+$  と  $D_b$  は現在、上つきの  $D^+$  と  $D^b$  でそれぞれ表すのが通例である。

- (i)  $\xi$  の錐状近傍  $U$  と  $\pi(\xi)$  の近傍  $V$  で,  $V$  の任意の閉部分集合  $Z$  と任意の点  $x \in \partial Z \cap V$  で  $N_x^*(Z) \subset U^a \cup \{0\}$  を満たすものに対し  $(\mathrm{R}\Gamma_Z(F^\bullet))_x = 0$  となるものが存在する;
- (ii) ( $M$  を  $C^r$  級とする. ここで  $1 \leq r \leq \infty$  または  $r = \omega$  とする.) 境界が  $C^r$  級超曲面であるような任意の  $Z$  に対し, 条件 (i) が成り立つ;
- (iii) ( $M$  が  $\mathbf{R}^n$  の開集合であるとし,  $\xi = (x_0, \xi_0)$  とする) 実数  $\delta > 0, \varepsilon > 0$  で,  $|a - x_0| < \varepsilon$  を満たす全ての点  $a \in M$  に対し次が成り立つものが存在する.

$$\begin{aligned} \mathrm{R}\Gamma(\{x; -\delta \leq \langle x - x_0, \xi_0 \rangle, \langle x - a, \xi_0 \rangle \leq -\varepsilon|x - a|\}, F^\bullet) \\ \simeq \mathrm{R}\Gamma(\{x; -\delta = \langle x - x_0, \xi_0 \rangle, \langle x - a, \xi_0 \rangle \leq -\varepsilon|x - a|\}, F^\bullet). \end{aligned}$$

この命題は [4, §4] で暗に示されている.

**定義 1.** —  $F^\bullet \in \mathrm{Ob}(\mathrm{D}_+(M))$  とする.  $F^\bullet$  の超局所台 (micro-support)  $\mathrm{SS}(F^\bullet)$  とは, 次で定義される  $T^*M$  の閉錐である. :

- (a)  $\mathrm{SS}(F^\bullet) \cap T_M^*M = \overline{\bigcup_j \mathrm{supp}(\mathcal{H}^j(F^\bullet))}$ ;
- (b)  $\xi \in \dot{T}^*M, \xi \in \mathrm{SS}(F^\bullet) \Leftrightarrow$  命題 1 の同値な条件をみたす.

**例 1.** —  $M = \mathbf{R}^n, Z = \{x \in M, x_1 \geq 0\}, F = \underline{\mathbf{C}}_Z$ .<sup>\*2</sup>

このとき  $\mathrm{SS}(F) = \{(x, \xi); x_1 \geq 0, \xi = 0\} \cup \{(x, \xi); \xi_1 \geq 0, x_1 = x_2 = \cdots = x_n = 0\}$ .

**例 2.** —  $M = \mathbf{R}^n, \mathcal{U} = \{x \in M, x_1 > 0\}, F = \underline{\mathbf{C}}_{\mathcal{U}}$ .

このとき  $\mathrm{SS}(F) = \{(x, \xi); x_1 \geq 0, \xi = 0\} \cup \{(x, \xi); \xi_1 \leq 0, x_1 = x_2 = \cdots = x_n = 0\}$ .

**例 3.** —  $M = \mathbf{R}^2, Z = \{x \in M, x_1^3 \geq x_2^2\}, F = \underline{\mathbf{C}}_Z$ .

このとき  $\pi^{-1}(0) \cup \mathrm{SS}(F) = \{\xi; \xi_1 \geq 0\}$ .

### 3 関手的な性質

**命題 2.** —  $\omega$  を  $M$  上の双対化複体とする.

このとき, 任意の  $F^\bullet \in \mathrm{Ob}(\mathrm{D}_b(M))$  に対し,  $\mathrm{SS}(\mathrm{R}\mathcal{H}om(F^\bullet, \omega)) \subset \mathrm{SS}(F^\bullet)^a$  が成り立つ.

$M$  と  $N$  を  $C^1$  級多様体,  $f$  を  $M$  から  $N$  への  $C^1$  級写像とし,  $\bar{\omega}: T^*N \times_N M \rightarrow T^*N$  と  $\rho: T^*N \times_N M \rightarrow T^*M$  を  $f$  から定まる写像とする.

**命題 3.** —  $F^\bullet \in \mathrm{Ob}(\mathrm{D}_+(M))$  を  $f$  の  $\overline{\bigcup_j \mathrm{supp}(\mathcal{H}^j(F^\bullet))}$  への制限が固有となるものとする. このとき  $\mathrm{SS}(\mathrm{R}f_*(F^\bullet)) \subset \rho(T^*N \times_N M)$  が成り立つ.

**命題 4.** —  $f$  が滑らかであるとする.

- (i)  $G^\bullet \in \mathrm{Ob}(\mathrm{D}_+(N))$  とする. このとき,  $\mathrm{SS}(f^{-1}(G^\bullet)) = \rho\bar{\omega}^{-1}(\mathrm{SS}(G^\bullet))$  である.

<sup>\*2</sup> [訳注]  $\underline{\mathbf{C}}_Z$  は  $Z$  に台を持つ定数層である. 現在は  $\mathbf{C}_Z$  で表すのが通例である.

- (ii)  $F^\bullet \in \text{Ob}(\text{D}_b(M))$  とする. このとき, 任意の  $\mathcal{H}^j(F^\bullet)$  が  $f$  のファイバー上で局所定数層となるのは,  $\text{SS}((F^\bullet)) \subset \rho(T^*N \times_N M)$  が成り立つときである.

**命題 5.** —  $M$  と  $N$  を  $C^1$  級多様体とし,  $p_1$  と  $p_2$  を  $M \times N$  から  $M$  と  $N$  への射影とする.

- (i)  $F^\bullet \in \text{Ob}(\text{D}_b(M))$  と  $G^\bullet \in \text{Ob}(\text{D}_+(N))$  に対し,

$$\text{SS}(\text{R}\mathcal{H}om_A(p_1^{-1}F^\bullet, p_2^{-1}G^\bullet)) \subset \text{SS}(F^\bullet)^a \times \text{SS}(G^\bullet)$$

が成り立つ.

- (ii)  $A$  のコホモロジー次元が有限であるとする. このとき,  $F^\bullet \in \text{Ob}(\text{D}_b(M))$  と  $G^\bullet \in \text{Ob}(\text{D}_+(N))$  に対し,

$$\text{SS}(p_1^{-1}F^\bullet \otimes_A^L p_2^{-1}G^\bullet) \subset \text{SS}(F^\bullet) \times \text{SS}(G^\bullet)$$

が成り立つ.

## 4 超局所化

以降,  $N$  は  $M$  の部分多様体であるとし,  $M$  と  $N$  は  $C^2$  級であるとする.  $M \setminus N \cup T_N M$  ( $M \setminus N \cup T_N^* M$ ) にはブローアップ (éclaté) の (余ブローアップ (co-éclaté) の) 自然な位相を入れる (cf. [6]).  $j$  を  $M$  から  $M \setminus N \cup T_N M$  への包含とし  $\pi$  を  $M \setminus N \cup T_N^* M$  から  $M$  への射影とする.  $F^\bullet \in \text{Ob}(\text{D}_+(M))$  に対し,  $\lambda(F^\bullet)$  で ([7] と同様に)  $\text{D}_+(T_N M)$  の対象  $\text{R}j_*(F^\bullet)|_{T_N M}$  を表し,  $\mu_N(F^\bullet)$  で  $F^\bullet$  に対する  $N$  での佐藤の超局所化, すなわち,  $\text{D}_+(T_N^* M)$  の対象  $\text{R}\Gamma_{T_N^* M}(\pi^{-1}(F^\bullet))^a$  を表す.  $\Lambda$  で  $M$  の  $N$  に対する余法束  $T_N^* M$  を表す. ハミルトン同相写像  $T^*(T^* M) \simeq T(T^* M)$  によって, 束  $T^* \Lambda$  と  $T_\Lambda T^* M$  を同一視することができ, それによって  $T^*(T_N M)$  と  $T_\Lambda T^* M$  も同一視することができる. 他方, 滑らかな写像  $T_N M \rightarrow N$  から埋め込み  $T^* N \times_N T_N M \rightarrow T^*(T_N M) \simeq T_\Lambda T^* M$  が定まる. したがって,  $T^* N$  を ( $T_N M$  の零切断を通して)  $T_\Lambda T^* M$  の部分多様体と同一視することができる. とくに ( $M$  を  $T^* M$  に,  $N$  を  $M$  に取り替えることで)  $T^* M$  が  $TT^* M$  の部分多様体と同一視されることがわかる.

**定理 1.** —  $F^\bullet \in \text{Ob}(\text{D}_+(M))$  とする, 次の包含関係が成り立つ.

- (i)  $\text{SS}(\mu_N(F^\bullet)) \subset C_\Lambda(\text{SS}(F^\bullet))$ ,
- (ii)  $\text{SS}(\lambda_N(F^\bullet)) \subset C_\Lambda(\text{SS}(F^\bullet))$ ,
- (iii)  $\text{SS}(\text{R}\Gamma_N(F^\bullet)) \subset T^* N \cap C_\Lambda(\text{SS}(F^\bullet))$ ,
- (iv)  $\text{SS}(F^\bullet|_N) \subset T^* N \cap C_\Lambda(\text{SS}(F^\bullet))$ .

証明は [4] の主張の繰り返しである ([1] も参照). (iii) と (iv) は一般に真の包含である.

系 6. —  $\mathrm{SS}(F^*) \cap T_N^* M \subset T_M^* M$  とする. このとき,

$$\mathrm{R}\Gamma_N(F^\bullet) \simeq F^\bullet \otimes \mathrm{R}\Gamma_N(\mathbf{Z}_M) \quad \text{かつ} \quad \mathrm{SS}(F^*|_N) \subset \bar{\omega}\rho^{-1}(\mathrm{SS}(F^*))$$

が成り立つ.

([6, 1 章] の 命題 1.2.5 を用いる.)

系 7. — (i)  $F^\bullet \in \mathrm{Ob}(\mathrm{D}_b(M)), G^\bullet \in \mathrm{Ob}(\mathrm{D}_+(M))$  とする. このとき

$$\mathrm{SS}(\mathrm{R}\mathcal{H}om_A(F^\bullet, G^\bullet)) \subset T^*M \cap C(\mathrm{SS}(G^\bullet), \mathrm{SS}(F^\bullet))$$

が成り立つ.

(ii)  $A$  のコホモロジー次元が有限であるとする. このとき  $F^\bullet, G^\bullet \in \mathrm{Ob}(\mathrm{D}_+(M))$  に対し,

$$\mathrm{SS}(F^\bullet \overset{\mathrm{L}}{\otimes}_A G^\bullet) \subset T^*M \cap C(\mathrm{SS}(F^\bullet), \mathrm{SS}(G^\bullet)^a)$$

が成り立つ.

## 5 包含性

定理 2. —  $F^\bullet \in \mathrm{Ob}(\mathrm{D}_b(M))$  とする. このとき  $\mathrm{SS}(F^\bullet)$  は包含的である (関数  $f$  が  $\mathrm{SS}(F^\bullet)$  で 0 になるとき,  $\mathrm{SS}(F^\bullet)$  はハミルトンベクトル場  $H_f$  で不変である).

( $M$  は  $C^2$  級であるとし,  $C^1$  級関数  $f$  は  $T^*M$  の開集合でしか定義されないと仮定する.)

## 6 応用

以下では  $(X, \mathcal{O}_X)$  を複素解析多様体とし,  $\mathcal{D}_X$  で有限階の ( $\mathcal{D}_X^\infty$  で無限階の) 正則関数係数の微分作用素のなす  $X$  上の層を表す. 連接  $\mathcal{D}$  加群  $\mathcal{M}$  に対し,  $\mathrm{car}(\mathcal{M})$  で  $T^*X$  における  $\mathcal{M}$  の特性多様体を表す.  $Z$  を別の複素解析多様体とすると,  $\pi_Z$  で射影  $T^*(X \times Z) \rightarrow T^*X$  を表す.

命題 8. — (i)

$$\mathrm{car}(\mathcal{M}) = \bigcup_Z \pi_Z(\mathrm{SS}(\mathrm{R}\mathcal{H}om_{\mathcal{D}}(\mathcal{M}, \mathcal{O}_{X \times Z})))$$

である ( $Z$  は複素解析多様体である).

(ii)  $\mathcal{M}$  がホロノミー加群であるとき,

$$\mathrm{car}(\mathcal{M}) = \mathrm{SS}(\mathrm{R}\mathcal{H}om_{\mathcal{D}}(\mathcal{M}, \mathcal{O}_X))$$

である.

包含の片側は古典的な結果 [2] であり, 反対の包含は層  $\mathcal{E}_X^{\mathbf{R}}$  (cf.[6, 2]) のコホモロジーを用いた定義と,  $\mathcal{E}_X^{\mathbf{R}}$  が超局所微分作用素の環  $\mathcal{E}_X$  の上で忠実平坦であることから従う.

系 9. —  $Y$  を  $X$  の部分多様体とし,

$$(a) \mathcal{D}_X^\infty \otimes R\Gamma_Y(\mathcal{M}) = R\Gamma_Y(\mathcal{D}_X^\infty \otimes \mathcal{M}),$$

(b)  $\mathcal{D}_Y$  加群  $\mathcal{T}or_j^{\mathcal{O}_X}(\mathcal{O}_Y, \mathcal{M})$  は連接的である

と仮定する. このとき, 任意の  $j$  に対し次の包含関係が成り立つ.

$$\text{car}(\mathcal{T}or_j^{\mathcal{O}_X}(\mathcal{O}_Y, \mathcal{M})) \subset T^*Y \cap C_{T_Y X}(\text{car}(\mathcal{M})).$$

仮定 (a), (b) は確定特異点型ホロノミー加群ならば任意の部分多様体  $Y$  に対して成り立つ [3]. 系 9 は [3] の結果を補完し, 例えば,  $\prod_j f_j^{\lambda_j}$  型の分布の解析的波面集合の上からの評価を得ることができる.

本稿の主要結果は著者の一人が [8] において発表している.

## 参考文献

- [1] J. M. Bony, P. Schapira, *Solutions Hyperfonction du Problem de Cauchy*, Springer Lecare Noles in Math., 287, 1973, p. 82–98.
- [2] \*3 M. Kashiwara, Cours Université Paris-Nord redige par T. Monteiro-Fernandes, 1977.
- [3] M. Kashiwara, T. Kawai, *On Holonomic Systems of Microdifferential equations III*, Publ. Rims. Kyoto Univ., 17, 1981, p. 813–979.
- [4] M. Kashiwara, P. Schapira, *Micro-hyperbolic Systems*, Acta Math., 142, 1979, p. 1-55.
- [5] M. Kashiwara, P. Schapira, *Micro-support des faisceaux: application aux modules différentiels*, Journees E.D.P. Saint-Jean-de-Monts, 1981, publ. Ecole Polytechnique, Palaiseau.
- [6] Sato, T. Kawai, M. Kashiwara, *Microfunctions and Pseudo-differential Equations*, Springer Lecture Notes in Math., 287, 1973, p. 265-529.
- [7] B. Malgrange, Transformation de Fourier cohomologique, Expose a Nancy, mai 1982.
- [8] Schapira, *Micro-support des faisceaux*, Expose a Nancy, mai 1982.

---

\*3[訳注] M. Kashiwara, *Systems of Microdifferential Equations*, Birkhäuser, 1983. として単行本化されている.